

秋の自然観察会 実施報告

“梅ヶ島紅葉観察会”

- 1 実施日時 令和元年11月9日(土)
- 2 実施場所 静岡市大谷崩れ
- 3 参加講師 NPO森林インストラクターしずおか
大石 小嶋 内野 高橋
- 4 参加人員 36人
- 5 実施結果

晴天にめぐまれた絶好の観察日和でした。少し落葉が始まっていましたが、見事な紅葉が山々に映えてすばらしい光景の中を歩くことが出来ました。参加者36名は4班に分かれ、各班でインストラクターの案内のもと行動しました。所要時間はほぼ予定どおりの行き帰り3時間の行程でした。

入口の案内板で皆さんが驚いたのが、大谷崩れの規模の大きさでした。崩落量がダンプトラック2億台分とのことで、自然の威力を強く印象付けられました。かなり昔ここに来られたお年寄りの話では、ほとんど山一面岩だらけで、樹木観察どころではなかったと話していましたが、インストラクターより大谷崩れのできた理由、治山治水工事が進んで50年ぐらい前の「扇の要」より上はガレ場状態であったのが、今では樹木が成長して昔の面影がなくなっていることを話しました。従ってこの場所の植生はほとんどが人工的であることも話しました。

ホソエカエデ、ヤマハンノキ、ミズメ、イタヤカエデ等の樹木が良くみられました。カエデ類としては一般的にはカエルの手のように放射状に開いた裂片が5つとか7つ葉が知られていますが、それらとは形の変変わった、3つの裂片が目立つホソエカエデ、2組になった普通の葉に似たチドリノキ等を初めて見たという人が沢山いて、驚きとともに自然の



多様性についての認識を深めてくれたと思います。またホソエカエデの赤い葉柄と紅葉それとウリハダに似た樹肌に心惹かれるものがあったようです。

途中沢状になっている所を2か所横切りましたが、岩だらけのガレ場の中にヤマハンノキの群落が目につきました。緑化樹といわれ成長が早く、このようなガレ場に最初に植えられ、その後いろいろな樹が増えてゆくことを話しました。また市の許可を得てウツギの枝先を切り、中が空洞になっていることを確認することで、名前の由来を知ってもらいました。

また、ミズメの樹皮を少し剥いで、そこでの匂いを嗅いでもらいましたが、サロメチールの匂いがすることに大変驚いていました。あわせて、クロモジの爽やかな匂い、カツラのキャラメルのような匂いも嗅いでもらいました。

帰りがけには広い場所に皆さんを集め、近くに生えていたアオダモの樹液の蛍光現象の実験を見てもらいました。アオダモの切り口を水に漬けておき、そこに紫外線を当てると水が青く光るので、その幻想的な現象に皆さん興味深く見入ってくれていました。

「310年前に大規模な山崩れがあった自然のすさまじさと、治山工事での人間の偉大さ」を、孫に見せたいという人も出てきて、皆さん思い出多き観察会になったと思いました。

(大石 記)

